

NO	4068	レジメン名	BV-CapeOx			
病棟 患者番号 氏名	癌種	ステージ	PS	クール数	指示医師名	
				~		
年齢	身長	体重	体表面積	GFR(血清クレアチニン値)		
歳	cm	kg	m ²	ml/min		
【適応がん種】 Colon K			BV/I-OHP/Cape		【病状】 1 全て説明している 2 病名は説明しているが、詳しい病状については説明していない 3 未告知である 【治療】 1 抗癌剤による治療・予防と説明 2 抗癌剤とは言わず治療薬と説明 3 抗癌剤とは言わず予防薬と説明 4 薬に関しては説明していない 平成22年1月7日 改訂	
1・ペバシズマブ	7.5 mg/kg	DAY1	CCr補正	GOT補正		T-Bil補正
2・オキサリプラチン	130 mg/m ²	DAY1	Ccr60-40-20(50-35-25%)			
3・カペシタビン	(下記参照)	DAY1~14	50減量, 30禁	2.5倍以下		1.5倍以下
21日(3週)1クール			WBC基準	HGB基準		PLT基準
			3000	9		100000
			T-Bil	Scr		GOT/GPT/ALP
			施設基準値の1.5倍以下 2.5倍以下			
NO 薬品1	規格	本数	薬品2(規格本数)	時間・投与法		
① パロノセトロンパック		1 本		全開で点滴		
② デキサメタゾン 6.6mg		1 本	★生食50mL	主・15分で点滴		
③ ペバシズマブ()mg	400mg	本	生食100mL	デキサメタゾン終了後～ 主・1時間30分で点滴		
	100mg	本				
④ 生食50mL		1 本		ペバシズマブ終了後～ 全開で投与		
⑥ オキサリプラチン()mg	100mg	本	▲5%ブドウ糖250mL	生食フラッシュ後～ 側・2時間で点滴		
	50mg	本				
⑥ 5%ブドウ糖50mL		1 本		オキサリプラチン終了後～ 全開で投与		
★DAY1に カペシタビン錠 14日分 オーダー必要★						
カペシタビン 2000mg/m ² (端数切捨て) 分2 14日分						
A・ BSA1.36未満…………カペシタビン(300mg) 2400mg/BODY/DAY 8錠 分2 朝夕食後 14日分						
⑦ B・ BSA1.36-1.66…………カペシタビン(300mg) 3000mg/BODY/DAY 10錠 分2 朝夕食後 14日分						
C・ BSA1.67-1.96…………カペシタビン(300mg) 3600mg/BODY/DAY 12錠 分2 朝夕食後 14日分						
2週間服用 1週間休み						
【1. 原則禁忌】 ●脳転移患者(脳出血のおそれ), 喀血(2.5mL以上の鮮血)既往患者						
【2. 投与前必須検査】						
●投与前・後に血圧測定 BP180/120を超える場合は主治医へ報告						
●ペバシズマブ検査セット						
(●血液算定●T-Bil●GOT●GPT●ALP●ALB●Scr●CRP●尿蛋白測定●PT-INR●APTT●フィブリノーゲン●D-ダイマー)						
●WBC3000以上(好中球1500以上)●HGB9g以上●PLT100000以上●T-Bil施設の基準値1.5倍以下						
●GOT/GPT/ALP基準値の2.5倍以下(肝転移を有する場合は5倍以下)●血清クレアチニン値基準値の1.5倍以下						
【4. 減量方法】						
●白血球1000未満(好中球500未満)●血小板数50000未満●消化器系グレードⅢ以上の有害事象						
上記のいずれかを認めた場合約20%程度減量考慮						
202201改訂						
月日	指示	指示医 受け 監査 払い 払監 調製 調監 前確 実施				
		①②③④⑤⑥ ⑦→14日間 DAY1				
【投与可能条件】 ①好中球1500以上 ②血小板75000以上						
【減量基準】……前クールの有害事象により判断						
①好中球500未満 ②血小板50000未満 ③消化器系グレードⅢ以上の有害事象						
①～③のいずれかが認められた場合は、オキサリプラチン85→65mg/m ² 又は カペシタビン減量						
ペバシズマブ投与 リスク患者:						
1)消化管など腹腔内の炎症を合併(消化管穿孔のおそれ) 2)大きな手術の術創が治癒していない(創傷治癒遅延による合併症)						
3)先天性出血素因、凝固系異常のある患者(出血のおそれ) 4)抗凝固剤投与中の患者(出血のおそれ)						
5)血栓塞栓既往患者(心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症のおそれ)						
6)高血圧患者(悪化のおそれ) 7)高齢者(重大な副作用が現れやすい) 8)妊婦、授乳婦(動物実験で催奇形性、授乳中に移行)						